

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103084		
法人名	社会福祉法人 安原福祉会		
事業所名(ユニット名)	あいの里 悠々1階		
所在地	和歌山市松原115		
自己評価作成日	令和5年12月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和6年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人が高齢者介護において最重要と考えているのは、地域に向けた施設、地域と共に支えていける施設を目標としています。同法人のデイサービスや小規模多機能型事業所が隣接しており、日常的に交流が深く、行事の際は地域の方々と共に大勢で賑やかにしています。入居者一人一人のその人らしい暮らしを支援し、日常生活にストレスを抱えることなく、入居者を家族、職員と共に支え安心して生活出来るように支援しています。本人または家族の意向確認を行ったうえで、施設内で看取りを希望される場合については、本人、家族、医療機関、事業所スタッフと話し合い積極的に受け入れ態勢をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フロアから見える大きなガラス窓の向こうの庭は、四季折々の季節が感じ取れます。「愛 信頼 笑顔」法人理念の中でも特に笑顔いっぱい、本当の家族のように利用者と職員が過ごされています。また、個々のニーズに合わせた支援ができるように、常日頃から利用者の日々の様子や言動を注意深く観察し、支援できるようにスタッフ間で共有しています。また、居室内に利用者専用の個人トイレもあり、自尊心やプライバシーにもきめ細かく考慮されています。利用者、家族の意向の基、ホームで看取りケア、終末期を迎えることも可能であり、最後まで安心して暮らせる体制が整っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔で安心穏やかな日々を共に生きよう。を事業所理念とし、各個人の残存能力や個性を活かし、その人らしい生活が送れるように、職員間で話し合い全員で実践にあたっている。	法人の理念を踏まえ、各スタッフがアイデアを持ち寄って話し合いスローガンとして掲げている。また、利用者と一緒に手書きでスローガンを掲示物として作り、廊下などに掲げ周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小・中学校が近くにあり、登下校児童の姿が見られる。また、散歩やゴミ捨てに行く際に地域の方と挨拶され、地域の人々との交流を大切にしている。	以前は、地域の神社までの道で近所の方と話をしたり、近所付き合いを行っていたが、現在はコロナ禍のため困難な状況である。職員と一緒にゴミ捨てに行く時などに、近所の人と挨拶する事は続いている。	現在は、コロナ禍で困難であるが、今後は感染状況をみながら、徐々に地域との付き合いが復活し、以前のように地域の一人として、日常的に交流ができるようになることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の影響もあり、慰問・秋祭りの開催が難しくなっているが、事業所に見学に来られた際には特色など地域の方に向けて説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で中止していたが、令和5年10月から運営推進会議を再開。そこで話し合った意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため開催が困難な状況であったが、今後は2ヶ月に1度の再開を予定している。家族代表の方、地域代表の方、包括職員が参加し、包括職員より地域の社会資源についての情報共有等もあり、会議での意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことなどあれば、市役所、地域包括センターに相談するようにしている。困りごとなどあれば積極的に聞き、助言等を得ている。	市担当の職員と日々連携を行うことで、円滑な関係が保たれている。また、不明点や疑問点などは、その都度担当者に連絡し、確認を行っている。その他に、オンライン研修等にも積極的に参加し、関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内・外研修に参加し、伝達研修を実施することで職員全員が身体拘束についての理解が正しく出来ている。また、日々の支援で身体拘束にあたるものはないか職員間で話し合い、取り組んでいる。	年2回身体拘束研修を実施をしており、研修のテーマを毎回変えて学びを得ている。また、新人教育研修の一貫に身体拘束研修も含め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外研修に参加し、虐待防止についての理解を深めている。また、伝達研修で職員全員に周知することで、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業の研修に参加し、制度等について学ぶ機会があり、必要な方に関しては関係者と話し合い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書・重要事項・事業所の方針等十分説明を行っている。その際、入居者、家族の不安や疑問点などを尋ね、納得されたうえで入所して頂くよう図っている。解約又は料金改定等の際にも十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱、相談窓口を設置している。又、家族の面会時、電話での近況報告の際、意見等を聞き、頂いた意見に対しては、職員間で話し合い支援に繋げている。	些細な事でも家族に電話連絡をし、利用者の状態が伝わるように配慮している。また、非接触で面会ができるように工夫し、顔や表情だけでも見れるような対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議、毎日の申し送り等で、職員の意見や提案等を聞き機会を設けている。管理者がそれを管理者会議の場や上長に提案し、運営に反映させている。	月一回のケア会議で、毎日の申し送り等で解決できなかった課題などを含め、話し合いを行っている。また、幹部もケア会議に参加し、職員の意見を直接聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上長が各ユニットを定期的に訪れ、勤務状況・努力などを把握している。職員と話す機会を作り、困りごとや相談ごとなどを聴くことで、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響もあったが、職員のスキルアップのために、リモートでの外部研修など感染症対策を行い、出来るだけ参加の機会を設けた。それを施設内研修で発表・報告し、全職員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、グループワークなどで他施と意見交換を行い、学んだことをグループ内の支援につなげている。老社協のボーリング大会に参加し、同業者との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、入居者本人と面会する機会を必ず作り、入居により入居者が不安等感じられないように努めている。また、事前に施設の見学を本人、家族に提案し環境を見てもらってから、安心して決めてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人・家族と話し合う事で、困りごとや不安などの要望を、出来る範囲で聞き入れ、入居後も家族と連絡を取り合い、面会時など情報交換をすることで、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のニーズを捉え、本人、家族との会話の中で必要としている支援を考え、福祉用具等必要なサービスがあれば、家族に相談し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の尊厳、残存機能などを大切に、洗濯たたみなど出来る事は共に行い、共に生活する環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすいように環境を整え、来られた際には近況報告など行い関係づくりに努めている。また、本人からの要望などあった際には、電話連絡でもやりとりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が面会に来られた時には、昔話等会話を交えながら、関係が途切れないよう支援に努めている。	入居前に訪問し、自宅での様子や家族構成、生活歴などの話を聞いている。担当のケアマネジャーとも連絡をとっている。交流のあった友人と関係が途切れないようにするため、面会や電話などが継続できるようスタッフが関わり支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や趣味などを把握し、職員が間に入り話を広げたり、活動と一緒に行うことで、孤立しないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終わっても、これまでの関係性を大切に、必要に応じて病院や施設、他サービスの紹介や相談等支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞いたり、意向が聞き取れない場合は日中の様子や、家族が面会に来られた際の会話の中で、出来るだけ意向を把握出来るように努めている。	本人の意見を聞くことが困難な時は 家での過去の様子を家族から伺うなど、本人が望む姿に近い形で支援ができるように努めている。また、スタッフからも意見を聞いて、本人が笑顔になれるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から入所前に生活歴、生活環境、サービス利用の状況を確認し、担当の介護支援専門員からも情報を集め、把握に務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日中の過ごし方や、支援について日々の申し送りや、ケア会議にて職員間で話し合い、残存能力を活かした支援方法等検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のニーズや望みを日々の様子や関わりの中で見つけ、その人らしく暮らせるために本人、家族だけでなく、職員や医療職とも意見交換を行い、介護計画を作成している。	本人の望む生活を計画に入れられるよう、また、家族の意見が反映できるように、関わりの深いスタッフから日頃の様子を聞いて計画に汲み入れ、目標を立て作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子やケアの実践等については、タブレットの個別記録に入力している。申し送りや、ケア会議にて情報を共有し、良かった点や改善点等話し合い、支援につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調に変化がみられた際に、主治医との連携や、協力医療機関を設け介護だけでなく医療も受けられる体制を作っている。また、緊急時等他事業所とも連携をとり柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響もあり、今までであった慰問や秋祭りが中止となり、外出も難しい状況ではあったが周辺の散歩や、敷地内での行事を行うことで楽しみを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に体調の変化があった場合には、主治医に相談や、協力医療機関を設け介護だけでなく医療も受けられるよう支援している。	入居時に希望がなければ提携の往診医に変わることが多いが、希望があれば今までの往診医での対応も可能である。提携医は、緊急時や夜間の対応も可能であり、ターミナルの対応もしているため変更する家族が多く、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携しており、週に1回訪問看護に來られ健康管理面、医療面での助言や、異変などがあれば指示を仰ぎ、必要にて主治医とも連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院のほうに利用者のADL状況や服薬の情報などについてすぐに報告している。退院に向けて、病院関係者との情報交換や、カンファレンスにて家族、看護師、医師と話し合う機会を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には重度化や終末ケアの方針について早期の段階で話し、主治医からの説明を行ったうえで家族の意向を確認し、希望があれば看取り契約することが出来る。	家族には、終末期ケアの方針について、入居時に説明している。また、看取り時の方針を決定するための医師による病状説明等の時には、管理者も一緒に立ち会い、意思確認ができるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、職員が落ち着いて対応できるようにマニュアルを作成し、目の付くところに掲示し職員全員が把握、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施しており、夜間での想定や役割を決め行っています。消火器具等の点検も定期的に業者に実施してもらっている。災害時に必要物品の確認や、避難場所も確認している。	年2回防災訓練を行っている。また、地域の消防団の方が年末に夜警に周り、火災の注意喚起等を実施されるなど、地域との協力関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのその人らしさを大切にし、安心して生活できる環境作りを心がけている。初期や、関係が築けてきた場合においても、言葉遣いや対応には注意している。	各部屋にトイレの配置があるなど、プライバシーに配慮された部屋になっている。また、権利擁護や接遇等の研修を実施し、職員間同士で常に意識し、声かけの工夫やプライバシーの配慮ができるような対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の利用者とのコミュニケーションの中で、本人の思いや希望を把握し、行事ごとや活動に取り入れている。職員の支援だけでなく、利用者が自己にて決められた思い等を大切に、支援につなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その日の本人の体調や思いを尊重し、負担等感じられないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には本人に服を選んでもらい、好きなものを着てもらっている。2か月に一回程度理容師が訪問し整髪してもらっている。必要にて訪問看護に爪切りをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好などについて把握に努め、おせち料理など行事ごとにも取り組んでいる。外に出来た柿やミカンをおやつにされるのを楽しみにしている。下膳など出来ることは一緒に行っている。	利用者に食べたい物の話を聞きながら、献立を毎回決めている。イベント時には、ホットケーキ作りや炭火で焼肉をしたり、夏祭りには、たこ焼きやフランクフルト、焼きそばなどを作っている。外出するイベントは、感染症対策により自粛しているが、今後は、地域の古民家カフェに行くなど再開を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や食事については、利用者の意見も取り入れながら支援している。食事、水分量については、タブレットに残し、摂取不足があれば職員で話し合い、必要にて主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前に口腔体操を行っている。毎食後一人ひとりに応じた口腔ケアを支援している。週に1回コップ類の消毒を行い清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を残し、そのデータから排泄パターンを把握し、効果的なトイレ誘導やパット交換に努めている。日中は出来るだけトイレ誘導を行うことで、自然排泄出来るよう支援している。	日中は、本人の様子を注意深く見てしぐさを察知し、トイレの場所の案内や誘導、介助を行っている。夜間は、睡眠の動向が管理できる機材を導入しているため、本人が夜に起きたタイミングで、排泄の誘導や介助ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルトの乳製品を使用したり、定期的に水分補給の時間を作っている。体操などレクリエーション活動を取り入れることで、便秘予防に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の本人の体調や希望に合わせて、曜日や時間帯を出来るだけ調整している。入浴前にはバイタルを確認し安全、安心して入浴出来るよう支援している。	週に2回から3回のペースで入浴を実施している。また、本人の希望の時間帯で入浴ができるよう配慮し、夜間対応も実施していたこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣やその日の状況に合わせた支援を心がけている。日中はレクリエーション等を行い、夜間安眠出来るよう支援している。介護ロボットを導入し、夜間の睡眠パターンを把握することで、効果的な巡回が出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報から職員全員が、目的など理解できるように努めている。利用者に体調の変化等見られた際には、すぐに主治医に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染症予防の影響もあり、外出等が難しい状況ではあったが、季節の行事ごとなど楽しめる支援を行っている。一人ひとりの残存能力を活かし、役割を持って生きがいを感じられるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の影響もあり、戸外への外出支援は難しいところがあった。	感染症予防のため、敷地内の庭で桜を見たり弁当を食べたりするなどの活動にとどめている。利用者の能力に応じて一緒に洗濯物を干したり、遊歩道を散歩したり、定期的に外気に触れる機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭、貴重品の持ち込みはされないが、本人、家族の希望によっては紛失の恐れもある為同意をもらっている。ほしいものについては、立替での購入や家族に持ってきてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙については、家族に了承を得て要望があれば対応できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、毎日掃除を行い清潔を保っている。廊下の壁や食堂に季節に沿った作品の掲示や、ベランダや敷地内で紅葉、桜の木など見られることで季節感を感じてもらっている。	YouTubeを使用し、体操の機会を取り入れている。また、なじみの音楽などを取り入れ、楽しい時間が過ごせる環境を提供している。食堂のテーブルは、スタッフの注意が行き渡るような配置にするなど工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が落ち着いて過ごせるように、テーブルの配置等工夫している。フロアにソファがあり、利用者同士が雑談されたり、ゆっくり過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、愛着のある物品、家族や本人の写真を飾ることで、安心できる環境を整えている。	居室には本人専用のトイレがあり、プライバシーの面も配慮されている。また、時には即席麺やお酒等の嗜好品を嗜まれる方もおり、本人が居心地よく過ごせるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には表札、共用トイレには張り紙等をしてわかりやすく工夫している。廊下等には手すりが設置されており、利用者が安心して過ごせるように努めている。		